

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成30年3月5日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 2名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	0名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3870103466
事業所名	グループホーム さしもも
(ユニット名)	さしもも1
記入者(管理者)	
氏名	泉内 勝
自己評価作成日	平成30年2月12日

<p>【事業所理念】 私たちは にこにこ、はきはき、きびきびと 優しく、正しく 品位ある 職員を目指して 磨きあい、支え合い 和をはかり さしももを 心懸える 施設に育てます</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 運営推進会議に、地域の方が増え、意見が聞ける様になっている。 利用者さんの遠方支援は、出来ていない。職員のスキルアップの機会が少ない。 地域の方に認知症の理解や支援方法をあまり出来ていない。 様々な災害を想定したマニュアルは作成できたが、訓練等は実施出来ていない。 当ホームを地域密着の意思を持って日々活動しているが、地域の方々に理解される所まで至っておらず今後も困難はあると考えるが日々推進していきたい。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は近隣に松山市役所支所や小学校、商店が立ち並び住宅地に立地しており、民家を改修した「さしもも1」と新築された「さしもも2」の職員や利用者が廊下伝いに行き来することができる構造になっている。幅広い年齢層の職員が、家庭的な雰囲気の中で利用者一人ひとりの想いを大切に考えて支援するよう努めている。経営母体の24時間医療体制が整っている診療所が近くにあり、いざという時は入院治療を受けられ、利用者や家族にとって安心できる医療体制が整備されている。</p>
---	---	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	△	普段より何をしたいか、何を思っているのかを聞いたりしているが、理解・把握に至っていない	△	/	○	日常会話の中で利用者一人ひとりの思いや希望を聞くよう努めている。意向を表すことが困難な利用者については、表情や反応で推察し、職員で話し合ったり、家族に聞いたりしながら、利用者の視点に立って検討している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	一人一人に合わせた対応等を考えて話し合いをして対応している	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会時に、ご家族様と話し合いをしているが、出来ていない方もいる	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	細かな所まで、気付いた事を記録に残している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	見落とせない様にしているが、情性等になっている所もある	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	本人やご家族様から聞いたお話により、情報を共有して全職員が把握できる様に努めている	/	/	○	入居時に利用者や家族から情報を収集すると共に、入院していた医療機関や利用していた介護保険事業所からも情報を得ている。利用者の背景や生活歴等は、フェイスシートに記録して共有されている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	介護記録等を活用して、心身状態について把握して一人一人の力量に合わせて生活ができる様にする	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	介護記録等を参考にして把握に努めている	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	介護記録等を参考にして本人に対して不安要因の把握して対処に努める	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	一人一人の生活の流れを理解して、日々の変化等に気付ける様に介護を努める	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	カンファレンス等を開催して利用者一人一人に対して意見を出し合い検討している	/	/	○	利用者毎の担当職員が事業所独自で作成したアセスメントシートを活用し、情報の収集と分析を行うと共に、介護計画更新時は改めて利用者の意向や希望をじっくり聞き取り、介護計画に反映させている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	△	日々の中で必要な支援とは何か考えながら介護している	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	出来る事から取り組み、支援の方法を検討して、対応する様にしている	/	/	/	

愛媛県グループホームさしも

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	各担当者に対して本人の思いや意向に対して気付きを大事して、反映したケアプランを作成している	/	/	/	利用者が持っている能力を活かせるよう、医療関係者の意見も取り入れて目標やサービス内容を設定している。家族の協力を得て気分転換のための外出をしている利用者もあり、家族と話し合いながら介護計画の中に家族の役割や協力を盛り込んでいくことを期待したい。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	主治医や訪問看護時の意見を取り入れたケアプランを作り、ご家族様に意見を聞き本人がより良い暮らしに努めている	△	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	出来る限りで施設内でホールで過ごす時間を持つ様にしている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	ご家族や地域の人達との協力体制等が今後、盛り込める様に努める	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	職員がケアプランを確認し、利用者さんの介護計画を把握・理解に努めている	/	/	○	毎月時間外に職員全員が参加してケアカンファレンスを開催し、介護計画の内容を全員が把握して共有している。介護記録は、家族にも分かりやすい表現で利用者の言葉等を記録し、毎月家族に開示してサインをもらっている。さらに利用者の状況や職員の対応等が記録されており、モニタリングに反映できるよう工夫している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアプランを3か月ごとに、状況確認をして、今後どの様にケアを行うのかを考え、再度ケアプランを作成し、日々の支援に生かしていく	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	日々の状況・状態を出来る限り介護記録に記録している	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	普段から職員の意見等を出し合う様にしているが、記録していない	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	ケアプランは3か月おきに見直しを実施している	/	/	○	毎月のケアカンファレンスで利用者全員の現状確認を行っている。また、担当職員が中心になって3か月毎にモニタリングを実施し、介護計画の見直しを行っている。状態に変化がある時は、随時ミーティングを開催して現状に即した内容になるよう検討している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	利用者さんが日々変わりがないか、様子確認・把握に努めている	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	家族様等との話し合い、その意見を取り入れたケアプランを作成している	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月1回、カンファレンスを皆済して、緊急案件の場合は、その都度、話し合いを設けている	/	/	○	月に1回、職員が全員参加できるよう日程を調整してケアカンファレンスを開催しているほか、申し送り時に気づきや提案を出し合って協議している。参加できなかった場合は、申し送りノートを確認することにより共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	△	意見交換ができる様な雰囲気や場づくりを工夫しているが、意見に対しての気付きがある方、ない方がいる	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	多くの職員が参加出来る様に希望休を除いた日時に設定している	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	もし参加出来ない職員には、話しあわれた結果を申し送りノートに記入して確認している	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートを活用し伝達していく	/	/	○	日々の伝達事項や変更内容、医療情報等は、申し送りノートに記載して確認し、署名することで確実に共有できるよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	職員が伝達不十分にならない様に、申し送りノートに詳しく記載して確認する様に努めている	△	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	職員が把握しようと努めるが、出来ない事も多く、フォローが難しい	/	/	/	洋服を自分で選べない利用者には、あらかじめ家族から好みの服装を聞いたり、飲み物は複数用意して好きなものが選びやすいよう配慮した支援に努めている。また毎日のレクリエーションや近所への外出、体操など、利用者に合わせて声かけ等にも努めているが、利用者のペースに合わせられないなど配慮に欠けることもあるため、利用者を楽しんでもらえるような雰囲気づくりにも取り組んで欲しい。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	利用者さんが行動する前には、本人の意思確認を行う様に努めている	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	意思がある方は見守り・お手伝いで支援を努めている	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	職員が一人一人の習慣を大切にしながら、決まりや都合を優先する様に努めている	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	△	日々、声かけをしているが、今後も努力していく	/	/	△	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	日々の暮らしの中に本人の意向・説明を踏まえて支援に努めている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	利用者さんの誇りやプライバシーを大切に、常に意識して介護にあたる様に努める	○	/	△	利用者を人生の先輩として敬意を持って接するよう努め、言葉遣いにも気をつけているが、職員により個人差があることは否めないため、皆が利用者の誇り等を尊重したケアに努めることが望まれる。トイレ誘導時の声かけ等に不適切な対応がある場合もあるため、職員全員がさりげない声かけを念頭においたケアを徹底することが望まれる。居室にはノックをするなど、利用者の了解を得てから入るようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	普段より、利用者さんの敬意を払い介護等に当たる様にしているが、出来ない職員もあり、その都度、注意・指導している	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	利用者さんに不安等を与えない様に介助しているが、出来ない職員もあり、その都度、注意・指導している	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	利用者さんのプライバシーを大切に、配慮に心がけている	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	プライバシー保護や個人情報の漏えいに対して職員の理解を深め、遵守している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者さんの意見等にしっかり聞き、互いに感謝し合う関係を築ける様に職員には指導している	/	/	/	新聞や本を取ってあげたり、怒っている利用者に対して優しく声をかけたり等の場面が見られた。不穏な雰囲気になった場合は、個別に思いを聞くなど、トラブルに発展しないよう支援に努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	普段より隣の方等、利用者同士の談笑されたり、支えあっていく事の大切さを理解する様に努力している	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の気の合わない方が近くの席に配慮して、トラブル回避に気を配る様に努力している	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が、これに対して、間に入り不安等を与えない様に努めている	/	/	/	

愛媛県グループホームさしも

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	ああご家族さんが来所された時にしっかり聞き、理解する様にしている	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	利用者さんの地域との関係性までは、しっかり把握出来ていない	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	ご家族さんより希望もなく、以前の馴染み等の関係性は、途切れている	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	居心地よく過ごせる様に工夫をしているが、ご家族様等が全く訪れていない方もいる	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	季節や時期を考え、職員同伴で外出する機会を設ける様に努めている	×	/	△	気候の良い時は事業所周辺を散歩し、近所の人たちと挨拶を交わすこともあるが、季節に応じた花や景色などを見に出かけるなど、積極的な外出支援にも努めて欲しい。重度の利用者等は、テラスや駐車場に出て外気浴等をすることもあるが十分ではないので、家族の協力を得て、気分転換を図るなどの支援にも取り組んで欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	しようとは考えているが、取り組めていない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	普段よりリッ体調等を考えて外出している	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	お花見、秋祭りや御神輿を見学、近くの小学校の行事に参加して、地域の方との交流を図っている	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	出来る限り認知症についての講習を促しているが、行く職員が少なく正しく理解出来ていない人も多く積極的に推進していく	/	/	/	利用者一人ひとりの心身機能のレベルを把握している。できることやできそうなことは過剰な介助にならないように努めており、洗濯物たたみ等できることは、職員に見守られながら取り組んでもらっている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	利用者さんの気付いた事を話し合い、良りよい支援方法を現状の状態を維持できる様に努めている	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	面会時に御家族様に説明を行い、申し送りノートを活用して、職員が同じ介護を行える様に努めている	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人の生活歴等を理解して、意思を尊重している	/	/	/	以前は食事の下ごしらえ等、家事を手伝う利用者がいたが、重度化に伴い難しくなっている。毎日日めくりカレンダーをめくる役割を持っている利用者もおり、利用者の力を引き出せるような何らかの役割や出番を持ってもらえるよう支援に努めて欲しい。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	認知症のレベルが進んでおられる方や介護度の高い方は、難しいが、体調をみながら取り組む様になっている	△	/	△	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域内の役割等は出来ていないが、行事時出来る限り参加する様にしている	/	/	/	

愛媛県グループホームさしも

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	着る洋服は、本人の意見をしっかり聞き、何枚も着られる方は声かけて対応している	/	/	/	季節に合わない服装や衣類の汚れに気づいた時は、さりげなく声をかけて着替えてもらっているが、無理強いはないよう配慮している。重度の利用者も、訪問理容等によりその人らしさが保てるよう好みの髪型にするなど支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	△	利用者さんの個性、生活歴を踏まえて、本人の希望を聞き支援している	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	日々の体調等を考え、職員が自己決定しやすい様に、いくつかの案を検討している	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	年中行事には、積極的に参加してもらい、利用者さんと相談して支援している	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	利用者さんのプライドを大切にしたり整える様に努めている	○	/	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	理容については、施設の方へ来てもらい、利用者さんの好みに合わせてカットしている	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度の方も、施設の方で来てもらい、好みに合わせてカットし、服装も出来る限り本人らしいものにして	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者さんの食事形態や量を把握して対応している	/	/	/	法人の栄養士が献立を作成し、調理専任職員やその日の当番の職員が利用者の希望を取り入れながら各ユニットで調理している。食材は注文して配達を依頼しており、野菜の下ごしらえや後片付けを利用者と一緒に行っている。季節に応じた野菜や果物など旬の食材を提供している。茶碗や箸、湯呑は個人の使い勝手のいい物を使用し、職員はさりげなく声かけしながら食事を促す等ゆったりと介助していた。職員が利用者と一緒に食事をするのは、行事など特別な場合に限定されているため、普段も利用者と一緒に食卓を囲んで食事を摂ることに期待したい。重度の利用者も一緒に食卓を囲み、嚥下状態に応じた食事形態にしてゆっくり食べながら、職員の話に耳を傾けている。栄養士が作成した献立は栄養バランスが考慮され、朝食にパンや雑炊、うどんを取り入れる等、現場の意向が反映されている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	献立は、栄養士の方が作っており、後片付け等は、出来る限り行っている	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	認知のレベルが高く、利用者さんの力を発揮、自信、達成感を感じられていない	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	様々な情報を申し送りノートに記入して、情報を共有している	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節に応じて旬の野菜や果物を提供している	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	身体機能や健康状態にあわせた調理して、食器や盛りつけ方に努めている	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	利用者さんが使用していた物を利用している	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	一緒には食事をしていないが、行事等には一緒にしている	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	重度の方でも、食事はホールに出て来てもらい、利用者さん全員で食事をしてもらっている	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	水分摂取量や食事量は日々記録に残しており、栄養バランスとカロリーは、栄養士が管理している	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	主治医や訪問看護の時に相談し、食事や水分は栄養補助食品や形態を工夫して対応している	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	利用者さんを個々で把握して、必要に応じて食事形態等を見直している	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	まな板等の調理器具は、毎晩除菌している。食品は早めに使い、衛生管理に努めている	/	/	/	

愛媛県グループホームさしも

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	重要性を理解した上で、毎日に丁寧に行う様になっている	/	/	/	定期的に歯科衛生士の訪問を受けて口腔ケアを行っているが、毎日ではないので、今後職員が毎食後利用者全員の口腔内の状況を把握し、常に清潔を保てるよう口腔ケアを実施することが望まれる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	口の中を確認したいが、拒否される方もおり全員は把握出来ていない	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	歯科衛生士に来て頂いてチェックと指導している方がいる。口腔ケアは学べていない	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	就寝前に消毒液につけこんでいる	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	普段より声かけして、日常的に見守り、介助を行っている	/	/	△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	常に虫歯等の状態に気付いたら、ご家族様に報告・確認をして訪問歯科を手配している	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	利用者さんの心身に与えるダメージについては理解しているが、排泄の自立を高める事に至っていない	/	/	/	利用者がなるべくトイレで排泄できるよう支援しているが、立位が困難な利用者は日中夜間共におむつを使用しているため、今後は介助するなどトイレでの排泄にも努めて欲しい。利用者一人ひとりの排泄状態を記録し、時間帯によって排泄用品を変える等工夫している。排泄用品を決める場合は、職員で話し合い、家族にも相談して経済的負担に配慮している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	精神的な不安や運動不足等により分かっている	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	毎日、排泄チェック表により確認している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	必要性や適切性は、常に考え、利用者さんに応じた支援を行っている	×	/	△	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	主治医との連携をして考えている	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表をもとに個々のパターンを把握し声かけを行い誘導している	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	排泄チェック表より時間帯に応じて選択し、ご家族様の要望も踏まえて決定している	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	利用者さんに応じて、時間帯別に選択している	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	軽い運動等をしたり、食物繊維を多く摂取している	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	1週間の予定は決まっているが、本人の体調等や希望により変更をしている	○	/	○	通常の和式浴槽のほか、リフト浴や座ったままでシャワー浴ができる機器が設置されており、利用者の身体状態に合わせて安全に入浴できるよう支援している。週2回の入浴を基本としているが、夏季に希望があれば回数を増やす等、柔軟に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	一人がゆっくり入って頂ける様にしているが、体調等を考慮している	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人が出来る所は、行ってもらい見守り・介助をしている	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず、気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	無理強いせず、原因や理由を理解する様に努めている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	朝のバイタル測定、入浴前のバイタル測定を実施し、本人の心身状態を確認している	/	/	/	

愛媛県グループホームさしも

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜勤者の申し送りを参考にしている	/	/	/	夜間不穏になる利用者には寄り添い、日中活動することを念頭にケアに努めるなど、なるべく薬剤に頼らないよう支援している。眠れない日が続くなどやむを得ない場合は、医師に相談し薬剤を服用することもある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	眠れない原因について、検討して生活のリズムを整える様に努めている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	主治医に相談・報告をして、支援内容を検討し、薬に頼らない方法を探っている	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	居室等でしっかり休める様に室内の温度計を参考に空調等を気を付けている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	利用者さんは、出来ない方が多くおられる	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	字は書けるが、手紙の内容が分からない方が多くおられる。電話を取りづぐが理解出来ない事が多くみられる	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	配慮をしているが、内容が分からない方が多くおられる	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	渡してはいるが、内容に対して返事を書く事もある	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	×	拒否される方が多く難しい	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	利用者さんがお金の所持する方もいるが、心配される方おられる	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	ご本人と一緒に現金にて買い物に行く事がない	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物へ行かないので声かけをしていない	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	お金は施設にて管理し、本人に必要と思われる物をご家族様に確認して購入する	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	利用者さんに必要な物は施設にて管理している	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	△	利用者さんの個別に管理してご家族様に報告している	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	利用者さん本人の要望等について、出来る限りニーズに応える様に取り組んでいる	○	/	○	他科受診は家族の付き添いを原則としているが、必要に応じて職員が受診介助を行っている。また、介護タクシーを紹介して家族の便宜を図っている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	近隣の人に親しみやすい様な雰囲気作りに努めている	○		○	さしも1は民家を改修した建物で、さしも2は道路に面して建っている。玄関周りに花を植えたプランターが置かれ、一般家庭と変わらない雰囲気である。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	共用の空間には、壁等に季節を感じれる様な物を飾り、家庭的な雰囲気も感じれるとれる様に努めている	△		○	さしも1はダイニングと和室があり、さしも2は2階建ての建造物で、1階部分が共用空間になっている。掃除が行き届き、空気清浄器が設置されているなど、清潔感が感じられる。生花や利用者と共に作成したクラフト作品が飾られ、季節を感じることができるよう工夫されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	利用者さんにとって不安等を与えない配慮し、掃除をしている			○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	共用の空間には、壁等に季節を感じれる様な物を飾り、五感通じて居心地よい工夫をしている			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	施設内を利用者さんの思う通りにされ、居室では、1人の時間も大切にしている				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	共用空間より離れており直接見えなくなっている				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居する時に使い慣れた馴染みの物を持参してもらっている	○		○	エアコンやベッドなどが設置されており、利用者は好きなぬいぐるみや若い時の写真、家族の写真等を飾って居心地良く過ごせるよう工夫している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	施設内に安全に過ごせる様に、手摺りを付けている			○	玄関出入り口にスロープを設置したり、トイレに立ち上がり用手すりを置いたり、安全かつ容易に動作が行えるよう配慮するほか、居室やトイレを分かりやすくするための表示を工夫するなど、自立した生活が送れるよう支援に努めている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	トイレや居室には、分かり易く入り口に表示している				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	居室には、出来る限り手に取れる所に物を置いている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	拘束等の理解を深める為に、禁止事項を掲示し、今後の取り組みについて話し合う様に努めている	×		○	職員は施錠も拘束になることを理解しており、日中は玄関及びユニット間の施錠がされおらず、自由に行き来することができる。夕方等になると不穏状態になる利用者もいるため、安全を考慮し家族の同意を得て施錠することもあるが、職員は常に利用者を見守りながら支援しているため、利用者はいつでも外出できるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	ご家族様に理解をしてもらえる様にして安全確保につとめている				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	利用者さんと同行して外出する様にしている。心理的圧迫にならない様に工夫している				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	△	把握する様にフェイスシート等を確認してもらっているが、把握出来ていない職員がいる	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	△	日々指導しているが、発見出来ていない職員がいる	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	普段より、気になる事があれば、細かな所まで主治医や訪問看護時に相談をして確認・対処方法を聞く様にして信頼関係を築いている	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	ご家族様に希望する医療が受診出来る様に支援している	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	ご家族様に希望する医療が受診出来る様にしてより良い方法を選び支援している	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	職員が通院している。結果や処方された薬等の詳細報告して納得してもらう様にしている	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	施設内の過ごし方や習慣をサマリーに記入して提供している	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院とご家族の方々が連絡を取り易い様に努めている	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	主治医となっているので日頃より気になる事は相談して信頼関係を行っている	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	医療面では分からない事があり、日頃より相談している。介護面では出来る限り事を取り組んでいる	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	訪問看護は、24時間対応をしている	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	早期発見・治療につなげる為、日頃より健康管理について相談等しており、急変等でも夜間対応なので適切な支援が出来る	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	全ての職員が理解しているとはいえない	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	セット時、服薬時には必ず確認している	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	利用者異変・異常があれば、主治医に相談・報告している	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態の変化を見逃さない様に主治医等に相談している	/	/	/	

愛媛県グループホームさしも

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	普段より、重症化した場合は主治医の指示に従い、状態の変化を、ご家族様等と相談し意向を確認している	/	/	/	利用者が重度化した場合は、主治医や家族、職員等を交え話し合うなど、方針の共有に努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	職員全体・主治医等で話し合い、重度化・終末期のあり方を共有している	△	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	終末期は病院でしているが、職員の力量等を見極めて取り組んでいる	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	医療機関との連携して意見や必要性を確認して対応方針している	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	看取りは、病院で行っており、主治医等との連携を密にして、介護面で出来る限り行っている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	職員が医療面での話し合いが出来る雰囲気づくり安心していただける様に支援している	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	年に1回は感染症について学ぶ場を設けている	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	マニュアルはあるが、訓練等の対応は出来ていない	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	メディア等や新聞の情報をもとに、施設内で起こらない様に注意している	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	普段より情報収集に努め、感染症の対応をしている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	食事前、トイレ後、外出時等、来訪者にも手洗い励行して感染症予防にしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	ご家族様に、施設内での情報を伝え、支える関係を築いている	/	/	/	行事やイベント等の案内は家族にも出しているが、参加者があまりいないため、家族が参加しやすいよう開催時期等に配慮するなどの取組みに期待したい。毎月家族には利用料の支払いに併せて面会に来てもらうよう推奨しており、その際に利用者の日頃の様子を報告している。面会に来られない家族は定期的に電話があり、利用者の様子を確認している。事業所の運営上のことなどは、家族に報告していないため、今後は面会等を利用し報告するようにして欲しい。家族の面会時には、何でも気軽に相談等ができるよう気軽に声をかけ、話しやすい雰囲気づくりにも努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	来やすい雰囲気作りに努め、面会時には自由に過ごして頂いている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事、イベントがある時は、ご案内しているが、ご家族様も高齢化しており、あまり参加されない	×	/	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月、入居費は、出来る限り現金を持参してもらう様にして、月1回は、面会の機会を設ける様にしている	△	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	面会時には、出来る限り不安等に思っている事等を確認する様に行っている	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	より良い関係を築く様にしているが、関係性を配慮している	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事、イベントがある時は、ご案内しているが、運営上の事柄等は報告していない	×	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	家族会はないが、1年間の行事の中で1回でも参加して頂ける様にミーティングにて話し合いし決め対応したい	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクについては、ご家族様と話し合い、同意を得られる様に努める	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には、出来る話しやすい雰囲気を作りに努めている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	細かな部分まで説明を行い、理解・納得が得られる様に努めている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	しっかりとした話し合いをして、納得してもらえる様に努めている	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	誠意をもって説明をして、同意が得られる様に努めている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域のイベント等に出来る範囲で参加し、地域の理解を図っている	/	/	/	地区担当の民生委員の熱心な協力支援があり、地区の運動会や避難訓練、地方祭への参加のほか、隣接する小学校の餅つきを見物して餅を土産にもらうなど交流がある。管理者はさらにご近所付き合いを深めたいと考えており、職員と話し合っ意見や提案を出し合い、地域住民とのふれあいに積極的に取り組む姿勢である。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の方々との触れ合いは少ないが、出来る限り参加して、日頃より、関係を深める様にしている	/	/	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	散歩等に出かけ、地域の方々との触れ合い様にしている	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	地域の方は、立ち寄りされてない	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	職員等は、近所の方にはご挨拶程度しか出来ていない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	働きかけをしているが、生活等の充実を図れていない	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	把握できていない事がある	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	学校等に働きかけをしているが、関係はなかなか深まっていない	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	ご家族様の高齢化により、参加は難しい	x	/	△	固定化していた参加者に地域住民の参加が加わり、意見交換をしているが、家族の参加が少ないため、参加しやすい日程の調整等工夫した取り組みを期待したい。会議では利用者の状況や活動状況の報告を行い、地域の情報や助言を得ているが、評価等の取り組み状況の報告にも努めて欲しい。今後は、利用者や家族を含め、小学校関係者や地区防災担当者、地元商店主等、多様な方々の参加を要請し、関係を深め、会議でも積極的に意見を述べてもらい、運営にも活かせるよう努力することに期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	利用者さんの現状・イベント等の結果を報告している	/	/	△	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で出された意見等は、日々の支援に取り組む様にしている	/	/	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	議題は、常に同じ事が多く、参加メンバーも変わらないので、意見を出しやすい雰囲気する	/	/	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	担当課に提出している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	共通認識ができる様に申し送り後に理念を唱和して理解した上で支援している				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	普段は報告していないが、面会時等に説明している	×			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	職員の力量を把握しているが、計画的に研修を受けられていない				代表者はサービスの質の向上を図るには、研修は欠かせないという認識を持つなど、研修体制の整備等を重視している。さらに職員の業務負担軽減など、働きやすい職場環境づくりにも積極的に取り組むことが望まれる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	職員のスキルアップ出来る様には考えはあるが、しっかりした取り組みは出来ていない				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職員の意見や考え方、問題点を出来る限り聞き、やりがいのある職場雰囲気作りに努める				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	個人のスキルアップと勉強会、研修等の活動に参加して意識向上の機会を多く設けて増やせる様に努める				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員の相談等を聞く様にし、ストレス軽減に努める	○		△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	△	ミーティング等にて活用して、不適切なケアをしない様に指導しているが、学ぶ機会が取れていない				不適切なケアや身体拘束の具体的な行為を職員室に掲示して周知に努めている。虐待防止マニュアルを作成しており、不適切な言動に気づいた場合は、その都度個別に説明して改善に繋げているが、対応方法や手順等職員全員での共有にも努めることが望まれる。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	普段から職員とともに話し合い確認している				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	△	虐待等があれば、常に注意する様にしているが、発見した場合は、話し合いの場を設けて速やかに対応している				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員のストレス等がないか確認し、常に注意を払い対応している				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	施設内に身体拘束の内容を掲示して正しく理解してもらう様に努めている				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	常に話し合いの場を設けて、身体拘束しない取り組みを努めている				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	慎重に誠意を持って話し合い、リスク面を含めてご家族様に理解してもらえる様に努めている				

愛媛県グループホームさしも

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	聞いた事はあるが、詳しく理解はしていない	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	制度の違いは、重要な事柄なので今後、勉強の場を設けていきたい	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要に応じて相談や協力を得て連携体制を築いている	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し、職員にもしっかり理解する様に努めている	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	訓練等は行っていない。実践力を身につける事を視野に入れて理解を深める	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	日々のヒヤリハットにまとめる様にしている。全員がしっかり理解して再発防止に努める	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	普段より利用者さんのリスク等を考え、職員同士に話し合い事故防止に努める	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し、しっかり理解する様にして対応する	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	マニュアルに沿って対応して、必要な場合には市に報告する	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	速やかに対応をして、誠意を持って対応する様に努めている	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	利用者さんの日々行動や会話の中で、気付く事を大切にしている	/	/	○	日常会話の中で利用者の意見や要望を受け止め、対処するようにしている。家族の面会時には必ず声をかけて要望を聞いている。職員はカンファレンスやミーティングで意見や提案を出すことができ、幅広い年齢の職員がそれぞれの良さを発揮しながらチームケアに努めている。管理者は職員の意見等を聞く機会を設けており、必要に応じアドバイス等も行っている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	ご家族様より意見等を言いやすい環境を雰囲気作りに気を付けている	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	分かる範囲にて公共機関をお知らせしている	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	施設内を常に職員の意見等をしっかり聞く様に努めている	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	意見等を聞く機会を持ち、必要なアドバイスをしている	/	/	○	

愛媛県グループホームさしも

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	自己評価は、行えていないが、今後は、評価をして意義や目的を理解する様に努める	/	/	/	各ユニットのリーダーが中心になって自己評価を行い、管理者がまとめて作成している。職員は認知症ケアに求められている事柄や、現状と乖離している内容について再認識する契機になったと感じている。評価結果は会議で報告しているが、モニタリングにまでは至っていないので、家族にモニターをしてもらうなどの取組みが望まれる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	職員の意見等を出し合い勉強の機会を設ける様にする	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	ケアプランに取り入れて、達成できる様に取り組んでいる	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	評価結果は、会議にて報告しているが、今後の取り組みはモニタリング出来ていないので今後の検討課題である	×	/	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	結果や成果を取り上げて今後に活かせる様にしていく	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	施設の環境立地のマニュアルを作成し、しっかり見て理解する様にしている	/	/	/	年2回の火災避難訓練のほか、大規模災害時の避難方法について地区住民との協力体制を構築するため、地域の災害訓練に参加している。今後はさらに、避難所になっている小学校や近隣住民の協力が得られるよう協議を重ね、地域と合同での災害訓練にも取り組むことに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	マニュアルはあるが、防災訓練以外には行っていない。今後は、訓練等を実施して安全に避難出来る様に努める	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	消火設備や避難経路は確認しているが、非常用物品は定期的に行っていない	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	地域の防災訓練等に参加して、日頃より連携出来る様にして、協力・支援体制を確保できる様に努める	×	/	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	参加をして、地域の方に施設の認識をしてもらえる様に努める	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	地域の方に、施設の理解を今以上に理解してもらえる様に努力を行い取り組んでいる	/	/	/	地域の中での事業所の認知度を高め、協力し合える関係づくりをしたいと考えており、民生委員や関係機関の協力を得ながら相互支援関係を構築できるよう積極的に働きかけ、地域の相談ニーズを集約するなど、地域から頼られる事業所を目指して欲しい。また市や地域の関係機関とも連携し、合同イベント等にも取り組むなど、地域とのつながりを強固にし、拠点となるような事業所になることが望まれる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	誠意をもって対応する様にしている	/	/	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	地域の方に集う場所としては、施設が狭く出来ていない	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	協力は出来ていない	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	包括支援センターが主催する連絡会に出来るだけ参加して、他の事業所との交流を図っている	/	/	△	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成30年3月5日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 2名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	0名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3870103466
事業所名	グループホーム さしもも
(ユニット名)	さしもも2
記入者(管理者)	
氏名	泉内 勝
自己評価作成日	平成30年2月12日

<p><b>[事業所理念]</b>                  私たちは にこにこ、はきはき、きびきびと                  優しく、正しく 品位ある 職員を                  目指して                  磨きあい、支え合い 和をはかり                  さしもを 心懸える 施設に育て                  ます</p>	<p><b>[前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果]</b>                  運営推進会議に、地域の方が増え、意見が聞ける様になっている。                  利用者さんの遠方支援は、出来ていない。職員のスキルアップの機会が少ない。                  地域の方に認知症の理解や支援方法をあまり出来ていない。                  様々な災害を想定したマニュアルは作成できたが、訓練等は実施出来ていない。                  当ホームを地域密着の意思を持って日々活動しているが、地域の方々に理解される所まで至っておらず今後も困難はあると考えるが日々                  推進していきたい。</p>	<p><b>[今回、外部評価で確認した事業所の特徴]</b>                  事業所は近隣に松山市役所支所や小学校、商店が立ち並び住宅地に立地しており、民家を改修した「さしも1」と新築された「さしも2」の職員や利用者が廊下伝いに行き来することができる構造になっている。幅広い年齢層の職員が、家庭的な雰囲気の中で利用者一人ひとりの想いを大切に考えて支援するよう努めている。経営母体の24時間医療体制が整っている診療所が近くにあり、いざという時は入院治療を受けられ、利用者や家族にとって安心できる医療体制が整備されている。</p>
---	---	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	申し送りやカンファレンスにて話し合いをし、1人1人のその人らしい生活を検討し共有している	△	/	○	日常会話の中で利用者一人ひとりの思いや希望を聞くよう努めている。意向を表すことが困難な利用者については、表情や反応で推察し、職員で話し合ったり、家族に聞いたりしながら、利用者の視点に立って検討している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	1人で検討するのではなく全員で検討している	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	ご家族様に日常生活の様子をお話し本人様の生活状態を中心に話し合いをしている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	日々の連絡ノートにて記録し全員目を通し、アセスメントにて共有している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	対応した時に分からない事や異常を感じた事は1人で決めないで相談している	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前の聞き取りやフェイスシート等にて入居前に全員目を通して確認する	/	/	○	入居時に利用者や家族から情報を収集すると共に、入院していた医療機関や利用していた介護保険事業所からも情報を得ている。利用者の背景や生活歴等は、フェイスシートに記録して共有されている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	利用者1人1人の思いをくみ、その人にあった支援・サービス提供に努めている	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	利用者からの暴言や排泄時のスタッフの対応等にて共有する	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	要因を把握し、バイタルチェック・声かけの支援なのかを明らかにして対応し不安を除く	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	1日の生活の中で危険に及ぶ行動や言葉等メモし申し送りにて共有の支援を行う	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	本人の立場に立ってカンファレンスにて支援を検討してみる	/	/	○	利用者毎の担当職員が事業所独自で作成したアセスメントシートを活用し、情報の収集と分析を行うと共に、介護計画更新時は改めて利用者の意向や希望をじっくり聞き取り、介護計画に反映させている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	毎日のミーティングにて必要としている支援をどうするか話し合っている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	検討した内容によっては施設内なのか、医療面なのかをミーティングにて話し合っている	/	/	/	

愛媛県グループホームさしも

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	カンファレンス・ミーティング・連絡ノートを活用して本人らしい介護計画を作成している	/	/	/	利用者が持っている能力を活かせるよう、医療関係者の意見も取り入れて目標やサービス内容を設定している。家族の協力を得て気分転換のための外出をしている利用者もあり、家族と話し合いながら介護計画の中に家族の役割や協力を盛り込んでいくことを期待したい。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	アセスメント作成しカンファレンスにて1人1人のケアを検討しケアプランに反映する	△	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	日々の過ごし方としてこうしょく等がみられる方には、リハビリや体操を行い介護支援する	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	春秋には、散歩され、途中に挨拶をすとお花をみたり、メダカを見たり、外出し一緒に買い物食事される方もおられる	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	日々の介護支援にて、支援終了変更になったらメモを全員に伝え共有している	/	/	○	毎月時間外に職員全員が参加してケアカンファレンスを開催し、介護計画の内容を全員が把握して共有している。介護記録は、家族にも分かりやすい表現で利用者の言葉等を記録し、毎月家族に開示してサインをもらっている。さらに利用者の状況や職員の対応等が記録されており、モニタリングに反映できるよう工夫している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	カンファレンスにて全員の介護している支援について話し合い安心して生活できる様支援に努めている	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	毎日の生活状況が読んで目に浮かぶよう記録を行う様になっている	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	毎日の生活状況が読んで目に浮かぶよう記録を行う様になっている	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3か月間の計画で、見直し又は継続なのか話し合い利用者1人1人確認している	/	/	○	毎月のケアカンファレンスで利用者全員の現状確認を行っている。また、担当職員が中心になって3か月毎にモニタリングを実施し、介護計画の見直しを行っている。状態に変化がある時は、随時ミーティングを開催して現状に即した内容になるよう検討している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	普段からミーティング又はカンファレンスにて確認している。大切な支援は毎日ミーティングにて変更を伝える	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の身体変化・急を要する時はご家族様やスタッフに直ぐ連絡し伝える様にして本人の対応をしている	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	緊急支援を要する時は直接連絡して職員同士が話し合い課題等の解決に努める	/	/	○	月に1回、職員が全員参加できるよう日程を調整してケアカンファレンスを開催しているほか、申し送り時に気づきや提案を出し合って協議している。参加できなかった場合は、申し送りノートを確認することにより共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	新人職員でも気軽に話せる様に雰囲気を作り、担当者支援検討を話し合っている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	事前に開催日時を予定して、全員参加出来る様に考え、同じ支援が行える様にする	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	カンファレンスにはノートに内容を全部記録を読めば全員の利用者の事が分かる様にしている	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送り後のミーティング・連絡ノートを作成する	/	/	○	日々の伝達事項や変更内容、医療情報等は、申し送りノートに記載して確認し、署名することで確実に共有できるよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	夜勤→日勤→遅出→日勤→夜勤に1日の申し送り連絡ノートに記入しておく	△	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	毎日全員は出来ないで休みたい人は居室にて下肢の弱い人は見守り歩行を行う	/	/	/	洋服を自分で選べない利用者には、あらかじめ家族から好みの服装を聞いたり、飲み物は複数用意して好きなものが選びやすいよう配慮した支援に努めている。また毎日のレクリエーションや近所への外出、体操など、利用者に合わせて声かけ等にも努めているが、利用者のペースに合わせられないなど配慮に欠けることもあるため、利用者を楽しんでもらえるような雰囲気づくりにも取り組んで欲しい。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	×	1人1人出来る内容を提案し意思表示出来る様に時間を作る	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	朝のレクリエーションには、2・3点する事を提案し全員参加で行う様にしている	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	×	現在、その様な支援ができる様に改善中にて、就寝・起床・食事から検討する	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	△	認知度により、コミュニケーションが取れなくて不穏にならない様席替えを考え様子観察している	/	/	△	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	言葉・行動にて意思表示あったり、顔の表情等にて声かけしながら支援している	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	日々の支援の中で慣れた言葉や行動にて不安を抱かない様ミーティング等で再度、安心して頂ける支援を心がけている	○	/	△	利用者を人生の先輩として敬意を持って接するよう努め、言葉遣いにも気をつけているが、職員により個人差があることは否めないため、皆が利用者の誇り等を尊重したケアに努めることが望まれる。トイレ誘導時の声かけ等に不適切な対応がある場合もあるため、職員全員がさりげない声かけを念頭においたケアを徹底することが望まれる。居室にはノックをするなど、利用者の了解を得てから入るようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	状況にて対応できる様心がけている	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	排泄は戸を閉め、入浴はタオル使用対応で皆んなのいる所で排泄の声かけに気を付けている	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	利用者さんのプライバシーを大切に、配慮に心がけている	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	プライバシー保護、個人情報等は外部の人が出入りする所には貼布しない様に努めている	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	人生の大先輩として尊重し、家族であるとの意識を持ちいい関係性を保っている	/	/	/	新聞や本を取ってあげたり、怒っている利用者に対して優しく声をかけたり等の場面が見られた。不穏な雰囲気になった場合は、個別に思いを聞くなど、トラブルに発展しないよう支援に努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	双方の関係が良好になりご家族と思える様になる支援をする	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	昔話の本を読んだり、風船バレーで仲間意識を強調しながら共同生活が不安なく死後せる様に支援する	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	居室や和室を利用してゆっくりと話を聞いてあげて不安をなくす様にする	/	/	/	

愛媛県グループホームさしも

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	ご家族様との連絡をとりながらサービス提供する	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご家族様や知っている人に分からない事を聞いてから対応する様にしている	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	スタッフは出来ないのをご家族様の方に連絡し対応している	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	居室と談話室を提供し気軽に話せる場として使用している	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	真夏・真冬を除き、散歩や車でドライブ等に入浴がない日を利用して行っている	×	/	△	気候の良い時は事業所周辺を散歩し、近所の人たちと挨拶を交わすこともあるが、季節に応じた花や景色などを見に出かけるなど、積極的な外出支援にも努めて欲しい。重度の利用者等は、テラスや駐車場に出て外気浴等をすることもあるが十分ではないので、家族の協力を得て、気分転換を図るなどの支援にも取り組んで欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	歌や踊りのボランティアの支援あり、全員の外出は検討中です	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	リクライニング車椅子にて散歩やベランダにて過ごしてもらっている	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	お誕生日等に数人で好きなものを食べスタッフとご家族で支援している	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	カンファレンスや朝のミーティング等で話し合いケアに努め、又連絡ノートを使用して全員に伝えている	/	/	/	利用者一人ひとりの心身機能のレベルを把握している。できることやできそうなことは過剰な介助にならないように努めており、洗濯物たたみ等できることは、職員に見守られながら取り組んでもらっている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	1人1人の変動的な内容危険防止に繋がる事は早く連絡ノート参考に対応する様にしている	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	危険性がない事には見守り自力で出来る様にしている	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	毎日のレクリエーションで、しりとり、唄、紙芝居等を出来る人、食事の下膳等を自然にされている	/	/	/	以前は食事の下ごしらえ等、家事を手伝う利用者がいたが、重度化に伴い難しくなっている。毎日日めくりカレンダーをめくる役割を持っている利用者もあり、利用者の力を引き出せるような何らかの役割や出番を持ってもらえるよう支援に努めて欲しい。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	共同生活の中で中間意識を培う目的もあり全員で歌を唄い、体操したりしている	△	/	△	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	運動会やお祭りに、風船バレーをしている。参加はしているが関わりが多く出来る様に取り組みたい	/	/	/	

愛媛県グループホームさしも

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	本人の好みにて決めている	/	/	/	季節に合わない服装や衣類の汚れに気づいた時は、さりげなく声をかけて着替えてもらっているが、無理強いはないよう配慮している。重度の利用者も、訪問理容等によりその人らしさが保てるよう好みの髪型にするなど支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	本人の持ち物の中から今の生活レベルに合わせて洋服選びをしている。色等は本人の希望に任せている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人が色を決め、いつでも着用し危険に及ぶ物は説得し変える様に対応する	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	外出には季節に合わせ行事についても長時間の楽しめる物を選ぶ	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	出来る事は、本人にて出来ない所は職員がカバーしている	○	/	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	ご家族様の支援がない方は地域の協力店より出張支援している	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	スタッフにて支援している	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	毎日の正しい食生活により命を繋ぎ健康に過ごし美味しく食べる事で精神が落ち着き不穏なく安心した生活が出来る	/	/	/	法人の栄養士が献立を作成し、調理専任職員やその日の当番の職員が利用者の希望を取り入れながら各ユニットで調理している。食材は注文して配達を依頼しており、野菜の下ごしらえや後片付けを利用者と一緒に行っている。季節に応じた野菜や果物など旬の食材を提供している。茶碗や箸、湯呑は個人の使い勝手のいい物を使用し、職員はさりげなく声かけしながら食事を促す等ゆったりと介助していた。職員が利用者と一緒に食事をするのは、行事など特別な場合に限られているため、普段も利用者と一緒に食卓を囲んで食事を摂ることに期待したい。重度の利用者も一緒に食卓を囲み、嚥下状態に応じた食事形態にしてゆっくり食べながら、職員の話に耳を傾けている。栄養士が作成した献立は栄養バランスが考慮され、朝食にパンや雑炊、うどんを取り入れる等、現場の意向が反映されている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	×	認知度の高い人が多いので、歩ける人は下膳される	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	食材は注文し、ホールに9人座れば狭い為、数人が下膳されている	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入所時にアレルギーは確認している。全員の嫌いな物も確認している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節感を食から味わってもらえる様にその季節の物を摂取してもらう	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	全員、トレーを利用して1品1品を器に食材によって対応し季節の食材により目でも感じられる様にしている	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	馴染みの茶碗や箸、介護用スプーン等を活用して対応している	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	現在は、利用者と一緒に食事は行っていない	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	ホールの側にキッチンがあり、匂いや音も聞こえ目でも確認ができるので調理する方を良く見ておられる	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養士の作った週間メニューにて提供し、水分は1日2500cc摂れる様に声かけしている	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事が主に摂れる様に水分おやつ等の時間調整をしている。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	献立表を基本にアレンジして提供したり調理担当によって変えたり利用者さんの好みの物を作ったりする	/	/	○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理用品は毎日、除菌を1日1回し、マスク、手袋等を使用を厳守している	/	/	/			

愛媛県グループホームさしも

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	△	口の中に菌の繁殖しない様に朝・夕食後にうがいを行っている	/	/	/	定期的に歯科衛生士の訪問を受けて口腔ケアを行っているが、毎日ではないので、今後職員が毎食後利用者全員の口腔内の状況を把握し、常に清潔を保てるよう口腔ケアを実施することが望まれる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	口腔ケア時チェックを心がけている	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	利用者さんが訪問診療を受けられた時に聞く事が出来る	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎日、外されて就寝される口腔時に除菌液につける	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、1人1人に応じた口腔ケアの支援をしている	/	/	△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	出血や本人の痛みの訴えや義歯の不具合い食物が噛めない等は、かかりつけ医院の受診している	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	夜間はオムツ使用の方でも昼間はリハビリパンツに交換し、トイレ誘導にて排泄介助をしている	/	/	/	利用者がなるべくトイレで排泄できるよう支援しているが、立位が困難な利用者は日中夜間共におむつを使用しているため、今後は介助するなどトイレでの排泄にも努めて欲しい。利用者一人ひとりの排泄状態を記録し、時間帯によって排泄用品を変える等工夫している。排泄用品を決める場合は、職員で話し合い、家族にも相談して経済的負担に配慮している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	排泄の服薬にて対応し、毎日体操を行い、水分量に気を付けている	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	毎日、排泄チェック表に記入し、全員に一目で分かり、-3日目頃に服薬している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	夜間と日中はパンツ・オムツの使い方は違っている。日中はパッドを少なくして歩行の妨げにならない様になっている	×	/	△	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	日中は時間を決めて誘導している	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々のパターンがあり、時間がだいたい決まっているので声かけにしている	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	本人様は全く使用目的等分らないのでご家族様の方に説明し解して頂き気持ちよく使用できる様支援している	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	全介助、一部介助、自立されている方により本人の身体の状態により介助している	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	毎日、座位にて体操とリハビリをスタッフの声かけにて全員が廊下で見守りしながら歩かれている	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	1週間表で、入浴者を決めて朝のバイタルチェック、体調チェックを施行する	○	/	○	通常の和式浴槽のほか、リフト浴や座ったままでシャワー浴ができる機器が設置されており、利用者の身体状態に合わせて安全に入浴できるよう支援している。週2回の入浴を基本としているが、夏季に希望があれば回数を増やす等、柔軟に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	体調により、見送り等を検討し、機械浴にゆつくり入られている	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	湯舟に入りリラックスされている。自力で湯舟入れられ身体が洗えない人は介助にて対応している	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	DVDやCDをかけて少し時間をおいて再度、声かけを行う	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックにて確認し入浴前に再度バイタルチェックし不可を決め入浴後は水分補給し脱水にならない様に努める	/	/	/	

愛媛県グループホームさしも

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	排泄時間と睡眠時間を含めた介護記録を参考に把握している	/	/	/	夜間不穏になる利用者には寄り添い、日中活動することを念頭にケアに努めるなど、なるべく薬剤に頼らないよう支援している。眠れない日が続くなどやむを得ない場合は、医師に相談し薬剤を服用することもある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	朝のミーティングやカンファレンスにてラジオを付けたり、本を読んだりして入眠につなげている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	レクリエーションやリハビリで廊下を歩行訓練をして身体を動かし夜間の睡眠時間につなげていく	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	その日のバイタルチェック表を基に必要であれば、本人の訴えにてその都度対応している	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	書ける人は年賀状や電話したい人は出来る様支援している	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	ミーティング等で話し合いして出来る様に支援していきたい	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話ができる様オープンにしている	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	本人が分かる様に持っておられるので、担当者以外も分かる様整理している	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	×	今後、何度かご家族様の方にも声かけをお願いしている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	全員の方が今持っていません。お買い物は300円位を使って家族様がされる	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	必要な物はスタッフやご家族様が買っている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	今後、出来る様に検討している	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	所持している人もいますが、手持ちのお金は、不安になるからと持っておられる程です	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	本人が必要としたらご家族様が手渡す	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	事あるごとにお金を持つ事が一番難しい事です。担当者がいて、ご家族様の同意を得て全部管理している	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	職員が増えているので外出等があまり出られなかったため、これから支援に取り組みたい。	○	/	○	他科受診は家族の付き添いを原則としているが、必要に応じて職員が受診介助を行っている。また、介護タクシーを紹介して家族の便宜を図っている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関入口には季節のお花を植えており、春からは入口も少し開けたり窓を開放している	○		○	さしもも1は民家を改修した建物で、さしもも2は道路に面して建っている。玄関周りに花を植えたプランターが置かれ、一般家庭と変わらない雰囲気である。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	リビング内と玄関、廊下等には毎月季節のものを壁面を手作りで飾っている	△		○	さしもも1はダイニングと和室があり、さしもも2は2階建ての建造物で、1階部分が共用空間になっている。掃除が行き届き、空気清浄器が設置されているなど、清潔感が感じられる。生花や利用者と共に作成したクラフト作品が飾られ、季節を感じるができるよう工夫されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除機、拭き掃除している。利用者さんにもありがとうと言われる			○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	生け花をスタッフが持参し、香りや色を肌で感じてもらうようにしている。昔の歌のCDかけている			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ホールでは横や前の方とお話したりされて、疲れている方は居室で休まれている				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	開設時より考えて建てておられます。少し見えない様になっている。トイレの入口ドアはしやすい様にアコーディオンカーテンにしている				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所時に使い慣れた物等を持参される様にお話する。1品でもあれば不穏・不安が無く落ち着いておられる	○		○	エアコンやベッドなどが設置されており、利用者は好きなぬいぐるみや若い時の写真、家族の写真等を飾って居心地良く過ごせるよう工夫している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	△	高齢者の方ばかりの中でその方の出来る事、配膳・下膳・食事をされる出来ない人にはエプロンかけ等見守り安全にされている			○	玄関出入り口にスロープを設置したり、トイレに立ち上がり用手すりを置いたり、安全かつ容易に動作が行えるよう配慮するほか、居室やトイレを分かりやすくするための表示を工夫するなど、自立した生活が送れるよう支援に努めている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	あまりない事でもありますので、これからもない様に支援を心がけます				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	深い内容の事は出来ない人ばかりなので雑誌をみたり、塗り絵をしたり新聞みる人握力の強い人は介護用品をテーブルの上に置いている				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	×	スタッフが気がつかない間に外に出られると車道があり1人の出入りはなくスタッフと一緒に散歩をされます	×		○	職員は施錠も拘束になることを理解しており、日中は玄関及びユニット間の施錠がされおらず、自由に行き来することができる。夕方等になると不穏状態になる利用者もいるため、安全を考慮し家族の同意を得て施錠することもあるが、職員は常に利用者を見守りながら支援しているため、利用者はいつでも外出できるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	×	開放された施設にする事が理想ですが現場的には中々難しい状況の中で支援していますので努力します				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	季節により散歩に出かける様にしている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	月2回往診と週1回の訪問看護があり、すぐに対応してもらえ、この情報をノートに記入し毎日目を通しサインをしている	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日の状態に異変や体調の変化は連絡ノートに記入して共有している	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	協力医院すぐに受診出来る体制と24時間の対応にすぐ診て頂けるし急変した場合はすぐ往診対応してもらえる	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	協力医院受診又は専門医療等検討しご家族様との話し合いにて支援している	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族の希望が本人にとって良いのかという事等、共に検討し受診に繋げている	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院から受診結果までの情報・連絡ノートにスタッフが目を通し理解し支援している	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	サマリーを入院時に持参し、スタッフ同行のもと入院される	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院に行き本人様の状態等をみて関係者に現状を聞いている	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	受診した時等行き帰りに挨拶等している	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	かかりつけ医のもと訪問看護との契約にて24時間体制にて対応が早く出来、利用者の元も安心される半面スタッフも早急に対応にて支援が落ち着いて行っている	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間体制の訪問看護にて安心して対応出来ている	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	協力医院のもと訪問看護週1回の支援体制にて早期治療を受けられている	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	目的は理解しているが全部の用法・用量はもっと理解する様に時間を取りたい	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	朝昼夕の定期薬には袋の色分けをしており扱う者が勤務者にて決めて誤嚥を防いでいる	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	毎日のバイタル・排泄・食事チェックから異変状態を早く気付く様に対応している	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	朝のミーティングにて情報提供に連絡ノート利用し、必要に応じてFAXしたり電話にて情報をご家族様とともに共有している	/	/	/	

愛媛県グループホームさしも

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	体調が悪化によっては入院され、医師より内容状態の連絡ありご家族様には医師より連絡を受け情報を共有している	/	/	/	利用者が重度化した場合は、主治医や家族、職員等を交え話し合うなど、方針の共有に努めている。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	体調が悪化によっては入院され、医師より内容状態の連絡ありご家族様には医師より連絡を受け情報を共有している	△	/	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	体調の急変には、受診になり医師の見極めにより支援している	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	利用者の認知の進行状況、体調の低下等のお話し利用者にとってどうすれば一番良いかをお互いに話し合い支援している	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	看取りは行ってなく、かかりつけ医院にて対応している	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	行っていません。医師より聞いた内容等をお知らせしお話しする事はしている	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	常に感染症には、危機感を持っていて手洗いやうがい励行し、外からも感染させないという事を朝のミーティングで再度、確認しマニュアルにも目を通して支援している	/	/	/		
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	まだ一度もノロウイルスの感染がないので、早期対策として手順を貼布しており必要な物を準備している	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	メディア、かかりつけ医院より情報提供があり、利用者に感染させない又スタッフが持ち込まない様に支援している	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症の流行時期は特に連絡ノートにてスタッフに情報を伝え意識を持つ様になっている	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	専用(感染症)の物を玄関にも室内にも設置し手摺り等を消毒している	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	ご家族よりも、長く共に過ごす時間でもあり、家族の様な思いで全員が支援している	/	/	/	行事やイベント等の案内は家族にも出しているが、参加者があまりいないため、家族が参加しやすいよう開催時期等に配慮するなどの取組みに期待したい。毎月家族には利用料の支払いに併せて面会に来てもらうよう推奨しており、その際に利用者の日頃の様子を報告している。面会に来られない家族は定期的に電話があり、利用者の様子を確認している。事業所の運営上のことなどは、家族に報告していないため、今後は面会等を利用し報告するようにして欲しい。家族の面会時には、何でも気軽に相談等ができるよう気軽に声をかけ、話しやすい雰囲気づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	来所された時には少しでも時間とって頂き利用者の方と談話室又は居室にてゆっくりお茶しながら過ごして頂ける様にしている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	行事の参加の声かけを(クリスマス)けども行事にインフルエンザ流行にて中止となった。時期を見て多く参加出来る様にする	×	/	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	折々のイベントの写真を見て頂ける様に貼布し、又は個人の写真ファイルをみて頂いている	△	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	ご家族様の現状をお話し又は家族側の思いお聞きして情報をお伝えし対応している	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	ご家族様の支援が必要な事は認知症への理解出来る様に後につなぐ対応に関係支援している	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事、イベントがある時は、ご案内しているが、運営上の事柄等は報告していない	×	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	家族会はないが、1年間の行事の中で1回でも参加して頂ける様にミーティングにて話し合いし決め対応したい	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	△	来所の折にリスクの対応、内容には許可を頂き、希望する事にも話し合い対応している	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	気軽に伝えて頂けるようにスタッフから声かけに努めて対応している	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	細かい所までお話をして理解頂ける様に努めている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	入居された方で、夜入眠されない利用者の方との不穏状態の行動言動が続きご家族様から同意され退去された方がおられる	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	内容を文書にて示しキーパーソンの方に送り説明し、連絡ある方には口頭できちんと説明している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	ご家族様に、施設内での情報を伝え、支える関係を築いている	/	/	/	地区担当の民生委員の熱心な協力支援があり、地区の運動会や避難訓練、地方祭への参加のほか、隣接する小学校の餅つきを見物して餅を土産にもらうなど交流がある。管理者はさらにご近所付き合いを深めたいと考えており、職員と話し合っ意見や提案を出し合い、地域住民とのふれあいに積極的に取り組む姿勢である。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	来やすい雰囲気作りに努め、面会時には自由に過ごして頂いている	/	/	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	行事、イベントがある時は、ご案内しているが、ご家族様も高齢化しており、あまり参加されない	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	毎月、入居費は、出来る限り現金を持参してもらう様にして、月1回は、面会の機会を設ける様にしている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	面会時には、出来る限り不安等に思っている事等を確認する様に行っている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	より良い関係を築く様にしているが、関係性を配慮している	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	行事、イベントがある時は、ご案内しているが、運営上の事柄等は報告していない	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	行っていない	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	リスクについては、ご家族様と話し合い、同意を得られる様に努める	×	/	△	固定化していた参加者に地域住民の参加が加わり、意見交換をしているが、家族の参加が少ないため、参加しやすい日程の調整等工夫した取組みを期待したい。会議では利用者の状況や活動状況の報告を行い、地域の情報や助言を得ているが、評価等の取組み状況の報告にも努めて欲しい。今後は、利用者や家族を含め、小学校関係者や地区防災担当者、地元商店主等、多様な方々の参加を要請し、関係を深め、会議でも積極的に意見を述べてもらい、運営にも活かせるよう努力することに期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	面会時には、出来る話しやすい雰囲気を作りに努めている	/	/	△	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	細かな部分まで説明を行い、理解・納得が得られる様に努めている	/	/	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	しっかりと話し合いをして、納得してもらえる様に努めている	/	/	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	誠意をもって説明をして、同意が得られる様に努めている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	地域のイベント等に出来る範囲で参加し、地域の理解を図っている				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	地域の方々との触れ合いは少ないが、出来る限り参加して、日頃より、関係を深める様にしている	x			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	散歩等に出かけ、地域の方々と触れ合い様にしている				代表者はサービスの質の向上を図るには、研修は欠かせないという認識を持つなど、研修体制の整備等を重視している。さらに職員の業務負担軽減など、働きやすい職場環境づくりにも積極的に取り組むことが望まれる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	地域の方は、立ち寄りされてない				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	職員等は、近所の方にはご挨拶程度しか出来ていない				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	働きかけをしているが、生活等の充実は図れていない				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	把握できていない事がある	○		△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	△	学校等に働きかけをしているが、関係はなかなか深まっていない				不適切なケアや身体拘束の具体的な行為を職員室に掲示して周知に努めている。虐待防止マニュアルを作成しており、不適切な言動に気づいた場合は、その都度個別に説明して改善に繋げているが、対応方法や手順等職員全員での共有にも努めることが望まれる。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	△	ご家族様の高齢化により、参加は難しい				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	△	利用者さんの現状・イベント等の結果を報告している				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	会議で出された意見等は、日々の支援に取り組む様にしている				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	議題は、常に同じ事が多く、参加メンバーも変わらないので、意見を出しやすい雰囲気する				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	担当課に提出している				
		c	家族等から拘束や施設等の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	慎重に誠意を持って話し合い、リスク面を含めてご家族様に理解してもらえる様に努めている				

愛媛県グループホームさしも

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	共通認識ができる様に申し送り後に理念を唱和して理解した上で支援している	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	普段は報告していないが、面会時等に説明している	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	職員の力量を把握しているが、計画的に研修を受けられていない	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	職員のスキルアップ出来る様に考えはあるが、しっかりした取り組みは出来ない	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	職員の意見や考え方、問題点等を出来る限り聞き、やりがいのある職場雰囲気作りに努める	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	個人のスキルアップと勉強会、研修等の活動に参加して意識向上の機会を多く設けて増やせる様に努める	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	職員の相談等を聞く様にし、ストレス軽減に努める	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	ミーティング等にて活用して、不適切なケアをしない様に指導しているが、学ぶ機会が取れていない	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	普段から職員とともに話し合い確認している	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	虐待等があれば、常に注意する様にしているが、発見した場合は、話し合いの場を設けて速やかに対応している	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	職員のストレス等がないか確認し、常に注意を払い対応している	/	/	○	日常会話の中で利用者の意見や要望を受け止め、対処するようにしている。家族の面会時には必ず声をかけて要望を聞いている。職員はカンファレンスやミーティングで意見や提案を出すことができ、幅広い年齢の職員がそれぞれの良さを発揮しながらチームケアに努めている。管理者は職員の意見等を聞く機会を設けており、必要に応じアドバイス等も行っている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	施設内に身体拘束の内容を掲示して正しく理解してもらう様に努めている	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	常に話し合いの場を設けて、身体拘束しない取り組みを努めている	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	慎重に誠意を持って話し合い、リスク面を含めてご家族様に理解してもらえる様に努めている	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	聞いた事はあるが、詳しく理解はしていない	/	/	○	

愛媛県グループホームさしも

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	制度の違いは、重要な事柄なので今後、勉強の場を設けていきたい				各ユニットのリーダーが中心になって自己評価を行い、管理者がまとめて作成している。職員は認知症ケアに求められている事柄や、現状と乖離している内容について再認識する契機になったと感じている。評価結果は会議で報告しているが、モニタリングにまでは至っていないので、家族にモニターをしてもらうなどの取組みが望まれる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	必要に応じて相談や協力を得て連携体制を築いている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	マニュアルを作成し、職員にもしっかり理解する様に努めている				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	訓練等は行っていない。実践力を身につける事を視野に入れて理解を深める	×		△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	日々のヒヤリハットにまとめる様にしている。全員がしっかり理解して再発防止に努める				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	普段より利用者さんのリスク等を考え、職員同士に話し合い事故防止に努める				年2回の火災避難訓練のほか、大規模災害時の避難方法について地区住民との協力体制を構築するため、地域の災害訓練に参加している。今後はさらに、避難所になっている小学校や近隣住民の協力が得られるよう協議を重ね、地域と合同での災害訓練にも取り組むことに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	マニュアルを作成し、しっかり理解する様にしている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	マニュアルに沿って対応して、必要な場合には市に報告する				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	速やかに対応をして、誠意を持って対応する様に努めている	×		△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	利用者さんの日々行動や会話の中で、気付く事を大切にしている				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	ご家族様より意見等を言いやすい環境を雰囲気作りに気を付けている				地域の中での事業所の認知度を高め、協力し合える関係づくりをしたいと考えており、民生委員や関係機関の協力を得ながら相互支援関係を構築できるよう積極的に働きかけ、地域の相談ニーズを集約するなど、地域から頼られる事業所を目指して欲しい。また市や地域の関係機関とも連携し、合同イベント等にも取り組むなど、地域とのつながりを強固にし、拠点となるような事業所になることが望まれる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	分かる範囲にて公共機関をお知らせしている			△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	施設内を常に職員の意見等をしっかり聞く様に努めている				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	意見等を聞く機会を持ち、必要なアドバイスをしている				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	自己評価は、行えていないが、今後は、評価をして意義や目的を理解する様に努める			△	